

Q 2 LD (学習障害)とは、どのような状態ですか

1 学習障害 (Learning Disabilities) とは

Learning Disabilities の頭文字をとって「LD」と表すこともあります。
平成11年に文部省 (現文部科学省) から下記のような定義が出されました。

LD	Learning Disabilities	学習障害
<p>学習障害(LD)とは</p> <p>学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。</p> <p>学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。</p> <p>平成11年7月2日 学習障害及びこれに類似する学習上の困難を有する児童生徒の指導方法に関する調査研究協力者会議</p>		

【要 点】

- ・ 全般的な知的発達の遅れは見られない。
- ・ 学習上の基礎的能力のうち特定のものを習得し、使用することに著しい困難がある。

小・低学年・・・1学年以上の遅れ
小・高学年，中学校・・・2学年以上の遅れ

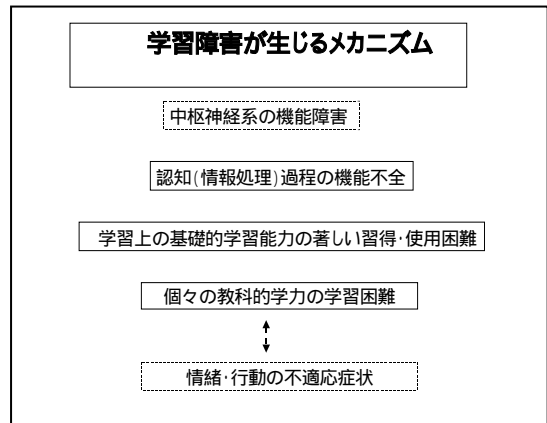
- ・ 中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。
- ・ 視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

2 LDが生じるメカニズム

定義にもあるように、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると考えられています。そのことにより、認知過程 (さまざまな感覚器官を通して入ってくる情報を受けとめ、整理し、関係づけ、表出する過程) が十分機能せず、学習上の基礎的能力 (聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する) の著しい習得・使用の困難に結びついていると考えられます。

また、不器用であるとか運動面や動作の能力、注意が散りやすく落ち着きがないという行動面や対人関係などの社会的適応性の問題は、定義の中核症状とはされていませんが、これらの問題を伴う場合が多いので、指導にあたっては十分に配慮する必要があります。

また、特異な学習困難から自信や意欲をなくしたり、自己評価が低くなったりして生じる二次的な障害に関しては十分な配慮をしていかなければなりません。



3 LDの特徴

<p>聞く</p> <p>集中して話を聞くことができない 何度も聞き返す 似た音を聞き間違える 聞かれたことと違う答えをする</p>	<p>話す</p> <p>話しているうちに話題が 飛んだりずれたりする 指示代名詞を使つての会話が多い 助詞がうまく使えない</p>
---	---

<p>読む</p> <p>促音、拗音などを読み間違える 似た文字の弁別ができない 文字をぬかしたり、付け加えたりして読む 行を飛ばして読む 読解が困難である</p>	<p>書く</p> <p>鏡文字がある ノートへの書き写しに時間がかかる 漢字など一画多く(少なく)書いてしまう まとまりのある文章が書けない</p>
<p>計算する</p> <p>筆算で桁をそろえて計算できない かけ算九九の習得に時間がかかる</p>	<p>推論する</p> <p>一つ一つの文は読めるが、それらをまとめて理解することが難しい 図形をうまく書き写すことができない</p>
<p>その他の特徴</p> <p>社会的知覚の問題 社会性の困難 身体的知覚の問題 体全体を使う動き 微細運動</p>	<p>この他のつまづきをみせることもあります。 子どもの様子をよく観察することが大切です。</p>

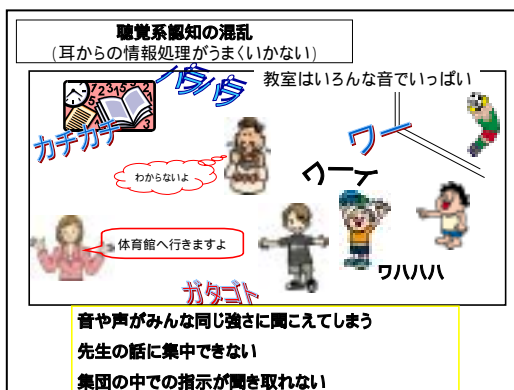
LDは、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されており、そのため下記のような認知の混乱が起きていると考えられます。

(1) 聴覚系認知の混乱

私たちは話を聞くとき、「聞き取りたい音や声(図)」に注意を集中して、「他の音や声(地)」は意識の外に留めています。

しかしLDの子どもの中には、聞いて理解することがうまくいかない子どもがいます。そのために、似た音を聞き誤る、内容の理解ができない、勘違いのような行動が見られる、落ち着きがないように見えるなどの様子が見られます。

また、短い時間だけ記憶にとどめておくという短期記憶の弱さが加わると、指示されたことを忘れてしまう、くり下がりのある計算をするとなりから借りたことを忘れてしまうなどの困難も見られます。



(2) 視覚系認知の混乱

私たちは何かを見ようとするとき、「見たいもの」を浮かび上がらせ、その他のものは意識の外におくことにより「見る」ということができます。しかし、視覚系認知の混乱がある場合、教科書の文字を追えない、行を飛ばし読みするなどの様子が見られます。

また、重なりのあるものが苦手な場合、よく似た文字を読み間違え、漢字を書くとき線が足りなかったり多かったりする、細かい部分が不正確であったりすることがあります。そして、空間認知(ものの位置関係・上下、左右、前後、東西南北、遠近、縦横等)の混乱がある場合には、地図の見方がわからない、体の身体部位の感覚がつかみにくい、ロッカーの位置がなかなか覚えられないなどの様子が見受けられることもあります。

